

南三陸町自然環境活用センター

春の特別講座

なぜ貝毒は起こるのか？

参加
無料！

～宮城県沿岸における 植物プランクトン、 貝類養殖と貝毒～



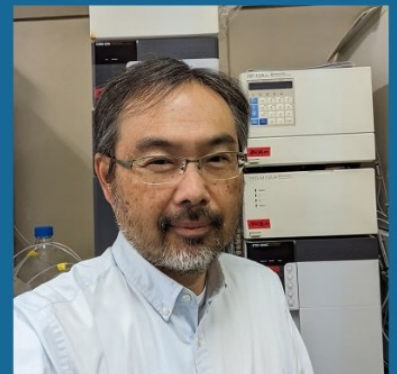
震災後、貝毒が頻繁に発生し、その度にホタテやカキが出荷規制・停止となっています。今回は、貝毒の発生メカニズムや種類、今後の予想などについて、専門家から詳しく解説いただきます。最新の情報に触れる大変貴重な機会です。みなさま、ぜひご参加ください。

日時：2024年3月4日（月） 15時～17時
(14時30分開場)

会場・連絡先（主催）
〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉沖田69-2
戸倉公民館2階 南三陸町自然環境活用センター
(南三陸ネイチャーセンター)


tel.0226-25-9703

講師



水産研究・教育機構
水産資源研究所
主任研究員

おくむら ゆたか
奥村 裕 博士



～宮城県沿岸における植物プランクトン、貝類養殖と貝毒～

水産研究・教育機構 水産資源研究所 主任研究員

奥村 裕

カーボנקレジットなど炭素固定が注目されていますが、植物プランクトンは海洋で炭素を固定する重要種と考えられています。また、植物プランクトンは魚介類の餌料としても重要ですが、植物プランクトンの種類により水産業にとって有益だったり不適だったりします。例えば、毒を持った植物プランクトンを貝などがろ過し、毒を体内に蓄積し、毒を蓄積した貝を食べることで、下痢や麻痺などの食中毒(貝毒)を引き起こします。そのため、安全性の検査(貝毒検査)や貝毒原因プランクトンの調査が行われています。

宮城県沿岸では、2018年以降に貝が毒化する海域が広がりました。様々な要因が考えられますが、ここ約10年で海洋環境が変化しているとの報告もあり、環境変化の影響かもしれません。シスト(貝毒原因プランクトンの種)の分布域も広がったと報告されており、現在、東北沿岸では貝毒が発生しやすい環境になっていると考えられています。

当日は、宮城県沿岸に出現する植物プランクトンの概要と貝類養殖における役割、貝毒について実施している研究等について報告を予定しています。